

大石霊山縦走 ウォーキングマップ



<コースの特徴>

大石の宝である“霊山”。今回は大石地区から霊山へ登る2つのトレッキングルートを紹介します。

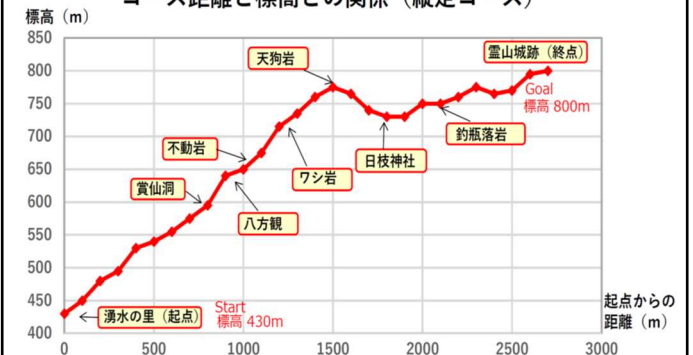
① 霊山縦走コース（—）

湧水の里キャンプ場を起点に、“紫明峰”のダイナミックな山稜を歩きながら霊山城跡に至るコース。急傾斜で歩きづらいポイントもありますので、登山靴は着用してください。

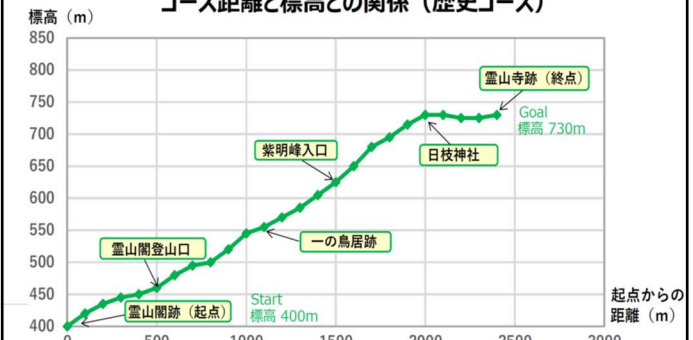
② 霊山歴史コース（—）

霊山閣を起点に一の鳥居跡を經由し、日枝神社、霊山寺跡へ至る歴史深いコース。かつての大石から霊山への参詣路であり、霊山登山観光のメインルートでした。

コース距離と標高との関係（縦走コース）



コース距離と標高との関係（歴史コース）



大石地区霊山縦走ウォーキング 散策 スポット

湧水の里（わくみずのさと）

1977 年バンガローを備えたキャンプ施設として誕生しました（その後バンガローは撤去）。霊山縦走ルートの起点となっています。その名の通り名水の地であり、銘酒「みちのく霊山」の水はここから取水しています。



紫名峰の峰々

紫明峰は北霊山に連なる急峻な岩峰群の総称であり大石を代表する名勝です。一説に日の出前の空が白み始める頃、山稜が紫色に輝いた事から紫明峰と呼ばれました。

賞仙洞

湧水の里から急登すると大きな一枚岩ににぶつかり、ここから紫明峰の連なりが始まります。この大岩は 2 つに裂けていて、岩の隙間から向こうの空も見える事ができます、この場所を賞仙洞と名付けました。



賞仙洞の岩の亀裂

八方観

大黒岩から更に急登、岩の下をぐり抜けると、眺めの良い高台があります。ここから見る向かいの岩は人の顔のように見えます。天空に突き出て眺めまわしている様子から八方観と呼んでいます。



八方観（赤囲部）

不動岩

八方観からアップダウンした道の先に、そびえる大きな岩が不動岩です。雨が降ると岩の間から一筋の滝が現れ修験者はその水を浴びるといわれます。



片栈橋

不動岩を過ぎると、岩を回り込むように鉄の片栈橋があります。ここから眺める吾妻山や安達太良山などの西の山々の眺望は絶景です。



ワシ岩

道脇の看板で指し示す岩の上から山上を見上げると、紫明峰の名所ワシ岩があります。今にも飛び立とうとするワシの姿の岩は壮観です（現在は岩の上の木々の繁茂で見えづらくなりました）。



天狗岩・稚児岩

天狗岩入り口から入ると、荒々しい両岩が隣り合う北霊山を代表する絶景ポイントがあります。天狗岩は紫明峰の最後の岩で、ゴリラの顔に見える事から通称ゴリラ岩と呼ばれています。



天狗岩と稚児岩

日枝神社・千手観音堂

紫明峰を越え山王平といわれる平坦地に降りると、高い土塁に囲まれた中に日枝神社と千手観音堂があります。

日枝神社は滋賀県の比叡山の麓の日吉大社からの法灯を守護し、日吉大権現 21 社を祀ったものです。山上の日枝神社が一の宮で、山麓の大石の日枝神社が二の宮となります（1552 年遷座）。

千手観音堂は信達 33 観音の 29



日枝神社



観音堂内の千手観音

番札所（大石宮脇）の奥の院です。もとは寺屋敷の霊山寺にあった観音堂（5 間四方の大伽藍）が南北朝の戦乱で消滅、その後、この地に 1 間四方の小庵として再建されました。同内には石に浮彫された素朴な千手観音像が安置されています。

寺屋敷（霊山寺跡）

山中で最も建物遺跡が多く残っています、霊山寺の中心エリアで本坊跡とみなされています。一番広い平地は天台宗寺院固有のにない堂（法華堂・常行堂）跡と思われます。北に登りつめると



にない堂跡のニリンソウ

たくさんの礎石を残す千手観音堂跡があります。「霊山寺縁起」によれば 859 年円仁により副霊山の古霊山に霊山寺を開基しましたが、その後この寺屋敷に移されて発展したと書かれています。南北朝時代、南朝方の陸奥国府となったことで 1347 年北朝の手により山上の堂塔伽藍は全て焼失しました。春はニリンソウが咲き乱れ、観音堂付近はフキノトウの畑になります。

霊山寺跡

山上で最も広い平坦地は、かつて霊山寺の仏教祭礼の中心地であった本堂（根本中堂）があったとされています。その後、南北朝時代北畠顕家がここに霊山城を建てる際、霊山寺の建物をそっくり「リフォーム」することにより、短期間で築城する事ができました。

明治期にここに霊山神社を建設しようという運動がありましたが、最終的には麓の大石に建設する事となり、ここには義良親王と北畠顕家の功績を顕彰する碑が建立されました。



「霊山城之碑」と「義良親王在御の碑」